

千種区の年齢3区分別人口の概況

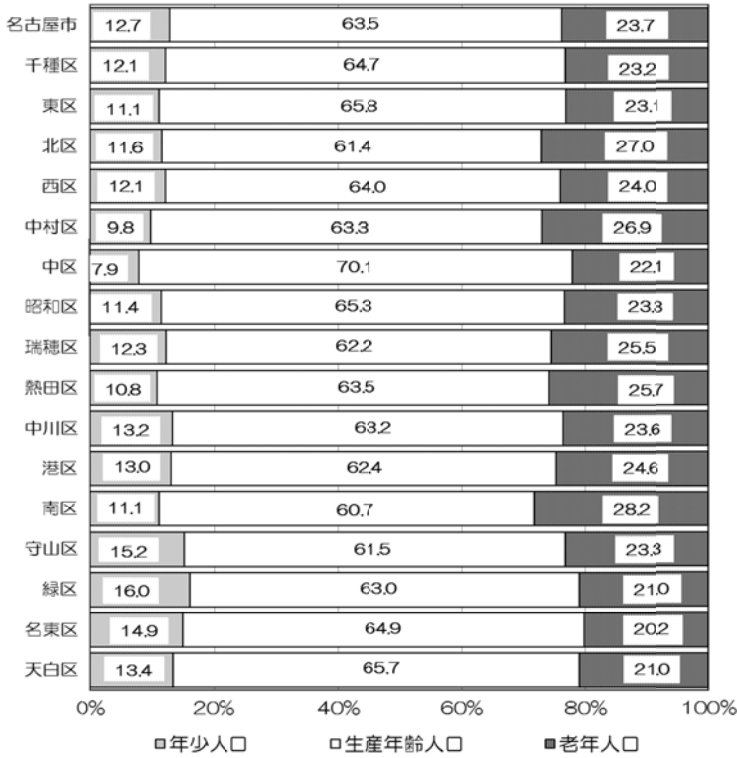


図 1： 区別年齢3区分別人口比率(平成 26 年 10 月 1 日現在)

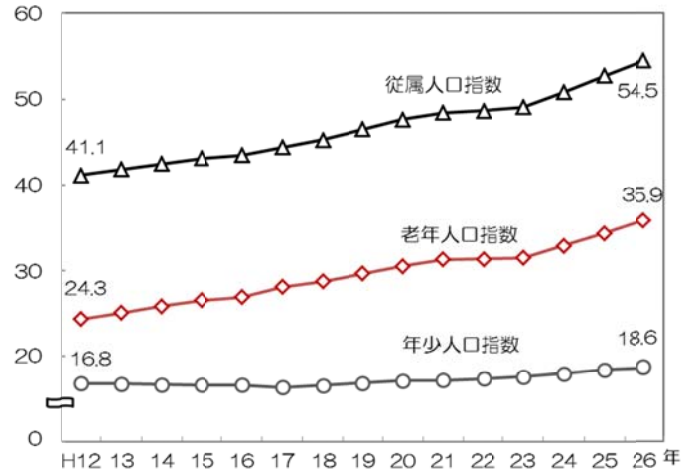
今回は、まず、千種区の年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15～64歳)および老年人口(65歳以上)の比率についてみてみます(図1)。

名古屋市および各区の平成26年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が16.0%と最も高く(前年も1位)、千種区は12.1%で16区中8位(前年は9位)でした。

また、生産年齢人口比率は中区が70.1%と最も高く(前年も1位)、千種区は64.7%で16区中6位(前年も6位)でした。

さらに、老年人口比率は南区が28.2%と最も高く(前年も1位)、千種区は23.2%で16区中11位(前年は9位)でした。

以上から、千種区は名古屋市の中でも働き手である生産年齢人口の比率が比較的高い人口構成であるといえます。



次に、千種区の年齢構成指数の推移をみてみます(図2上)。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口が年少者または高齢者を扶養する負担程度を示すものです。また、従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の平成26年の年少人口指数は18.6、老年人口指数は35.9で、いずれも平成12年以降増加傾向にあるものの、名古屋市全体を下回り(それぞれ20.0、37.3)、いずれも16区中10位となっています。また、平成23年以降の老年人口指数の急な上昇に伴い、千種区の平成26年の従属人口指数は54.5まで上昇しています。これは、名古屋市全体(57.4)を下回り、16区中11位となっています。

また、老年化指数は、年少人口に対する老年人口の比率を示すものです。千種区の平成26年の値は192.7でした(図2下)。これは、老年人口が年少人口のおおよそ1.9倍であることを示しています。この数値は、名古屋市全体(186.4)よりも高いものですが、16区中10位となっています。

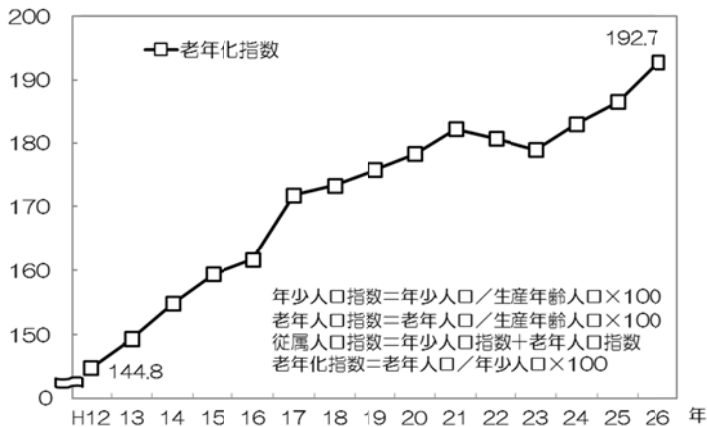


図 2 (上)： 千種区の年齢構成指数の推移

(下)： 千種区の老年化指数の推移

(各年 10 月 1 日現在)